

2025年12月10日WiFaS

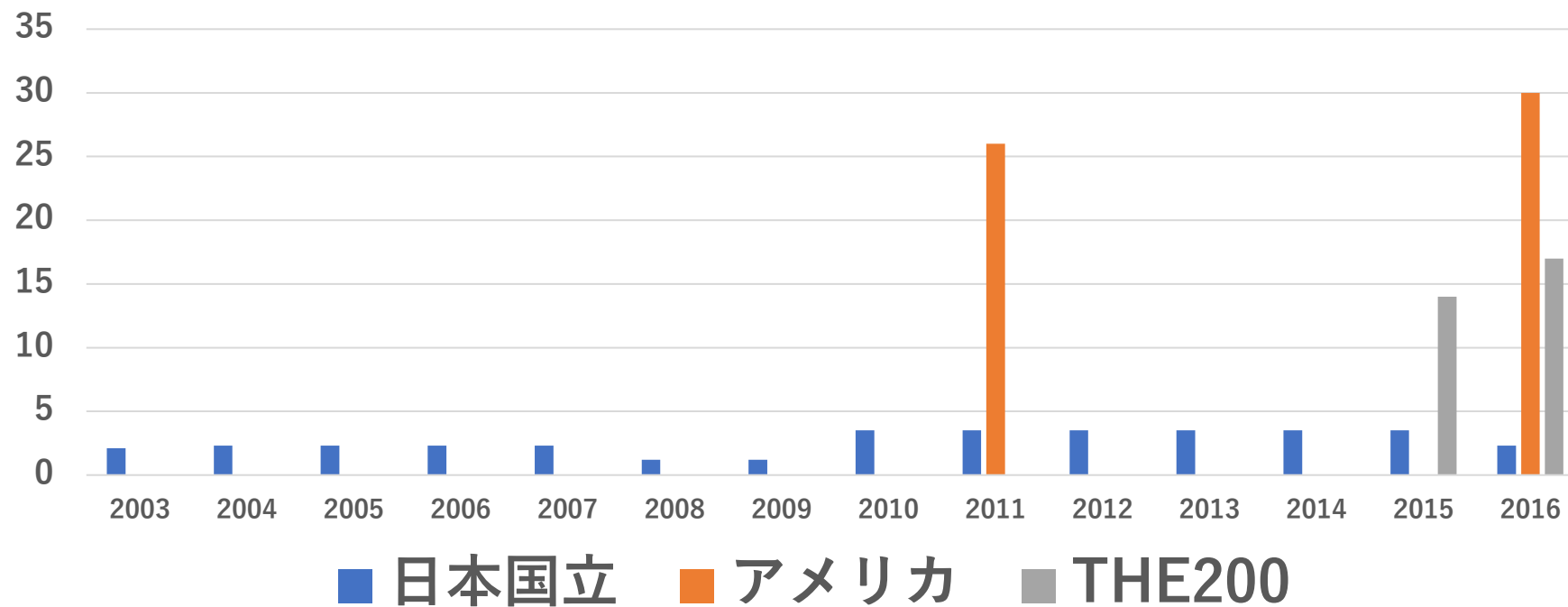
国立大学学長の10%を女性に、
副学長の50%を女性に（自民党行
革委員会2019年4月19日の資料をもとに）

総合研究大学院大学
元学長、名誉教授
長谷川真理子

日本の課題

- 「女性の地位向上」という点で、まったく世界のガラパゴスであること
- 「多様性を重んじる社会を作ろう」としながら、社会の重要な意思決定に関わっている人たちのほとんどは、男性（それも年寄り）である。
- まずは、「多様性」の中で、女性の数を増やしましょう。

日本の国立大学における女性学長% と海外比較



- 日本の86国立大学の女性学長の割合は圧倒的に低い！！
- 今年度から4人になって過去最高の4.65%

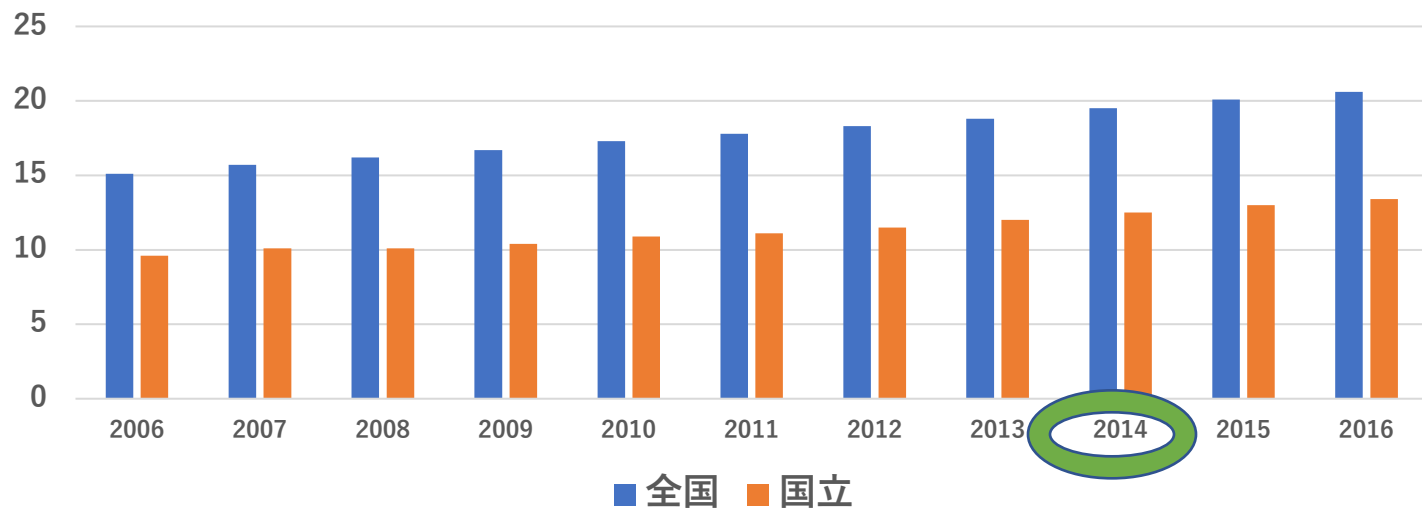
- お茶の水女子大で初の女性学長の出現は2001年
- 奈良女子大学では、1997から2003年の間の1人だけ
- アメリカ全大学では2000年台からすでに20%以上
- タイムズ・ハイアー・エデュケーション（THE）によるトップ200大学では女性学長は17%
- トップ60大学では25%

世界のトップ大学の女性学長

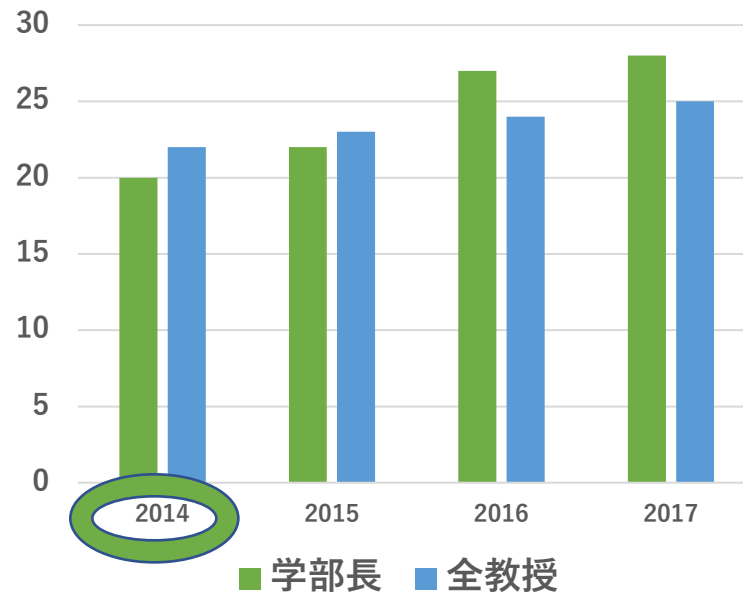
- オックスフォード大学、ハーバード大学、インペリアル・カレッジ・ロンドン、ペンシルバニア大学、カロリンスカ研究所、ワシントン大学、イリノイ大学アーバナ・シャンペーン校、マッギル大学、カリフォルニア大学デービス校、ワーゲニンゲン大学 などなど
- 私の友人のアリソン・リチャード博士は、1994年にエール大学副学長、その後、一昨年までケンブリッジ大学学長

女性学長が出るには女性教授がないといけない

日本の大学における女性教授%



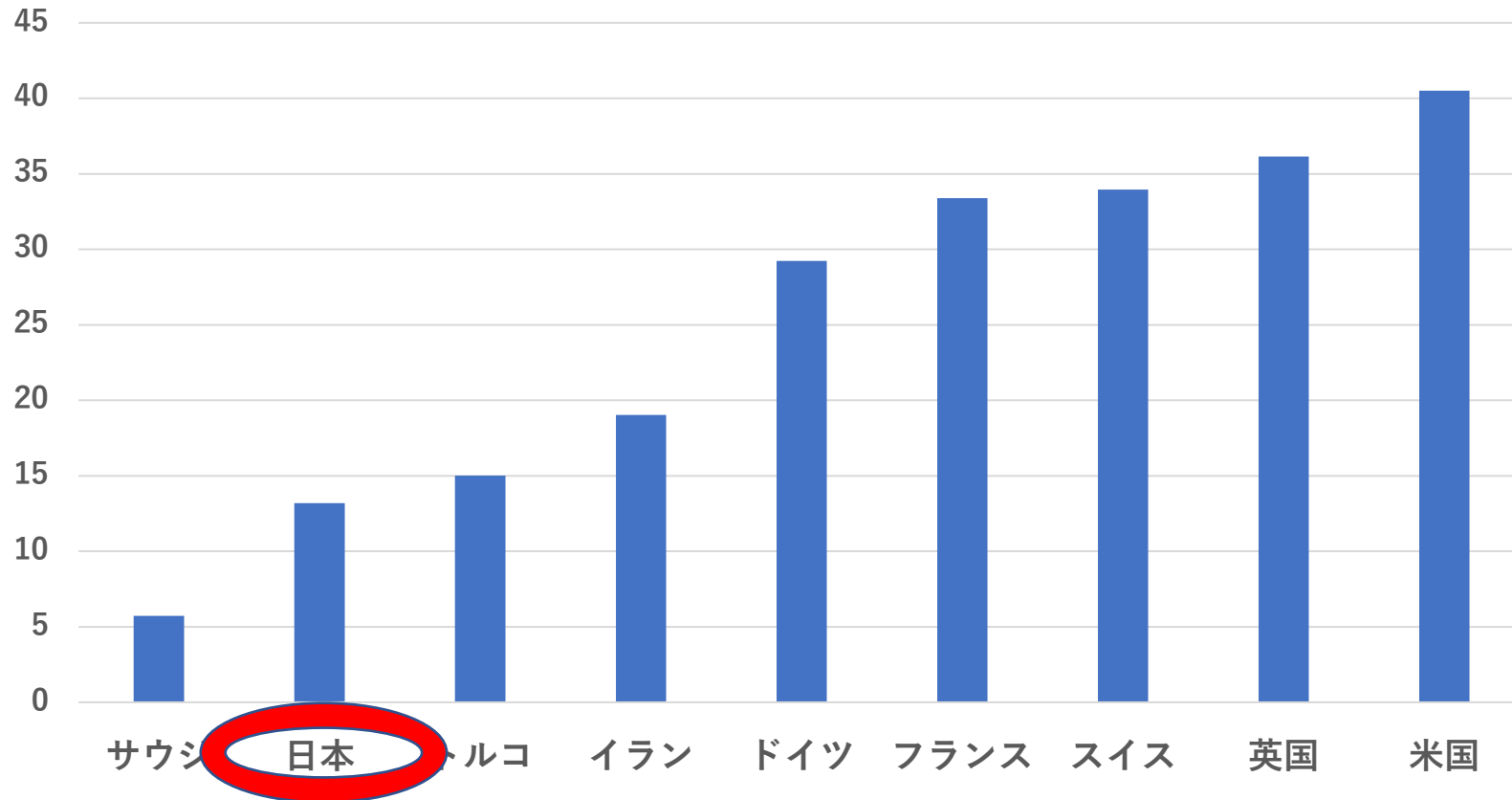
Oxford大学では



- 日本の全大学における女性教授の割合は、現在はおおよそ20%
- 世界トップのオックスフォード大学では、すでに24%
- 日本の国立大学の女性教授の割合はたった14%
- オックスフォード大学では、学部長の25%が女性

この状況は大学だけではない

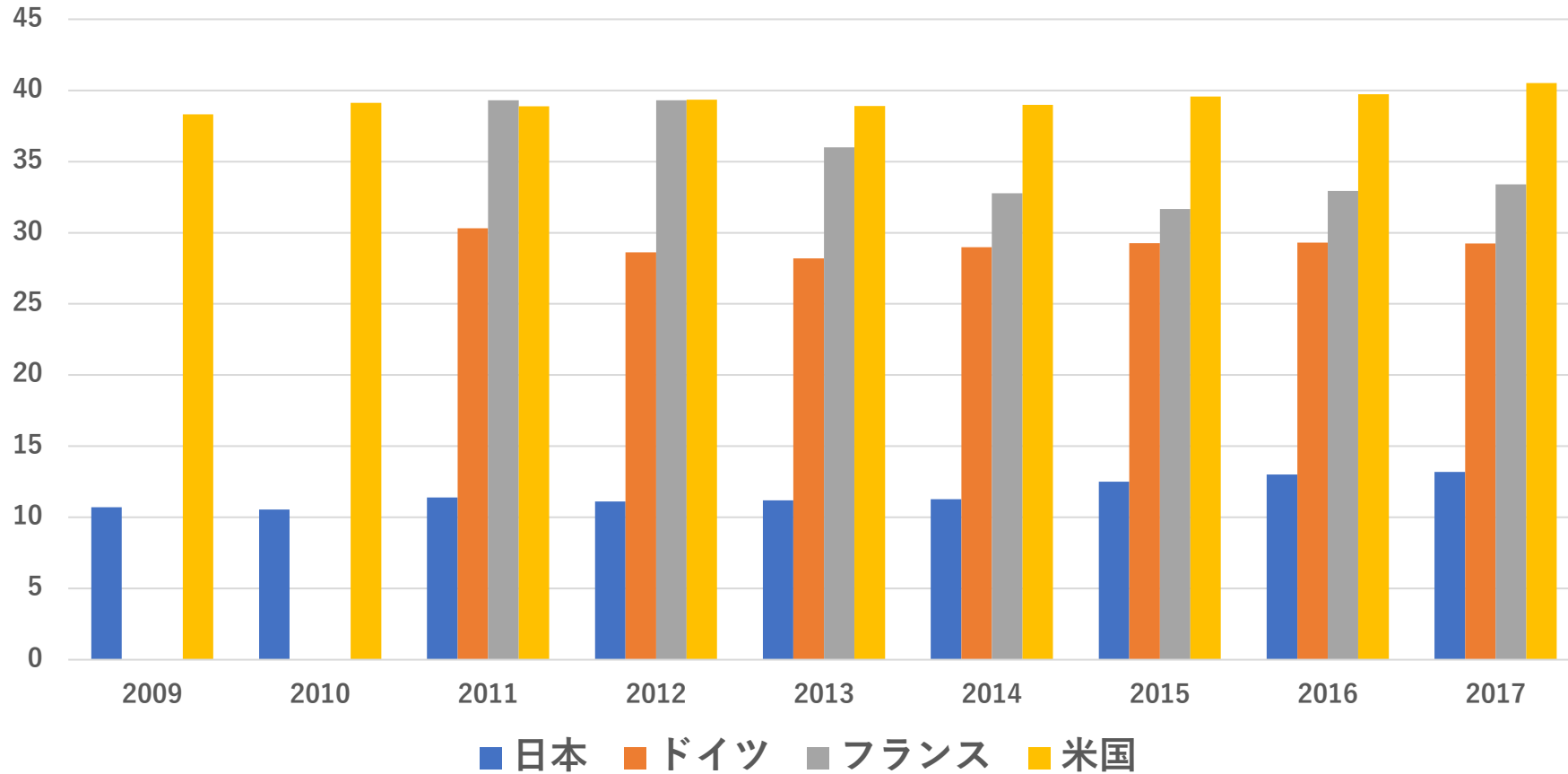
2017年女性管理職%



2023 年は
13.53%で
188か国中175位

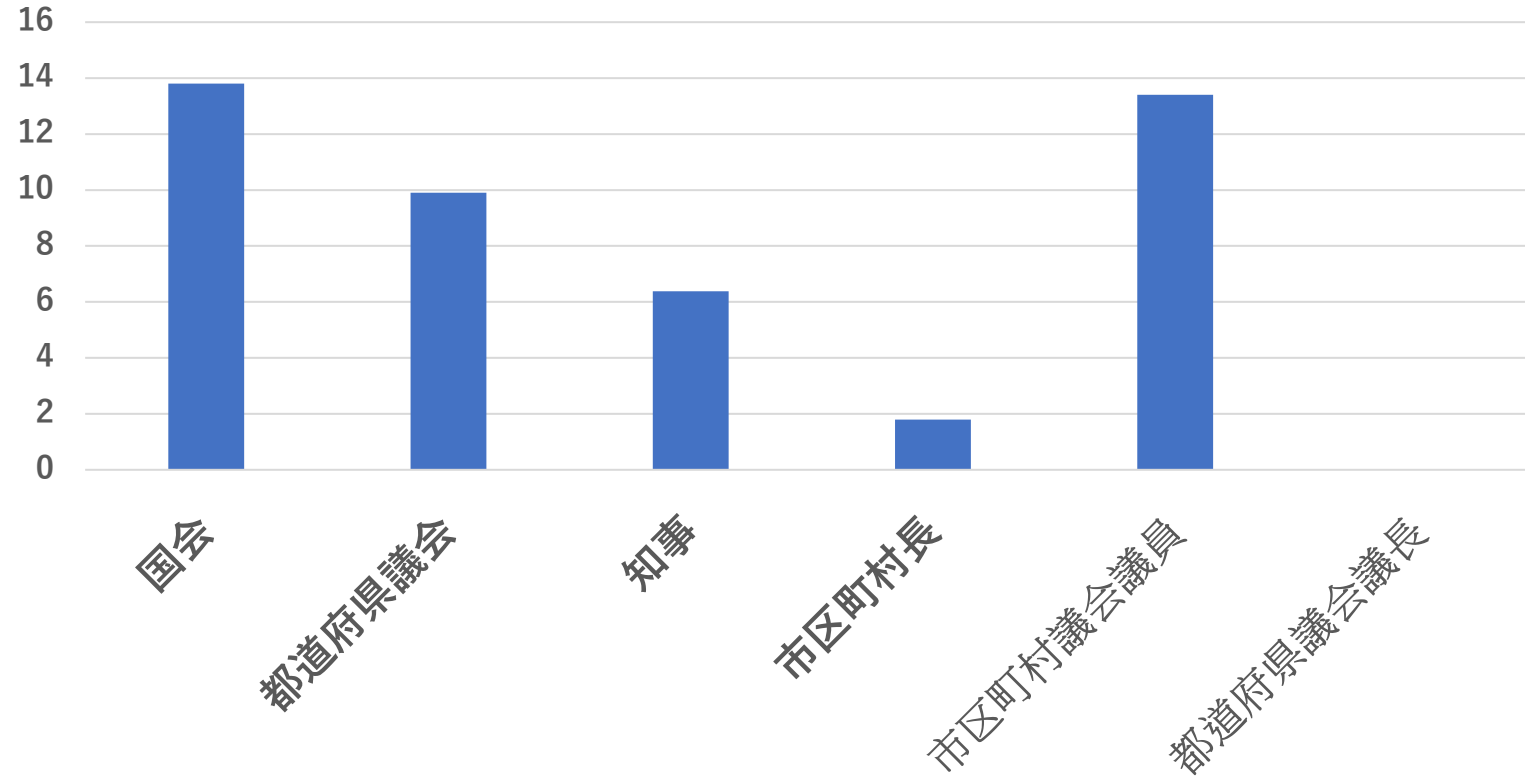
トルコ、イランは
18%台で156, 158位

女性管理職%の各国推移



- 企業、公務員、議員などの管理職における女性割合世界比較
(2017年)
- 日本は13.19%で、イラン、トルコよりも低い
- 日本は2009年には10.71%で、世界19位だった。それが、2017年になってまだ13.19%にとどまって、世界104位に転落。
- 2023年にも13.53%で世界175位。
- 欧米先進諸国は、2010年台ですでに30%超。その数字をだいたい維持しているので、年々、順位は転落傾向。
- イラン、トルコは、ずっと10%台で推移しており、順位転落。
- つまり、先進国以外の国々がどんどん30%台を達成している。

日本の政治における女性%2018年

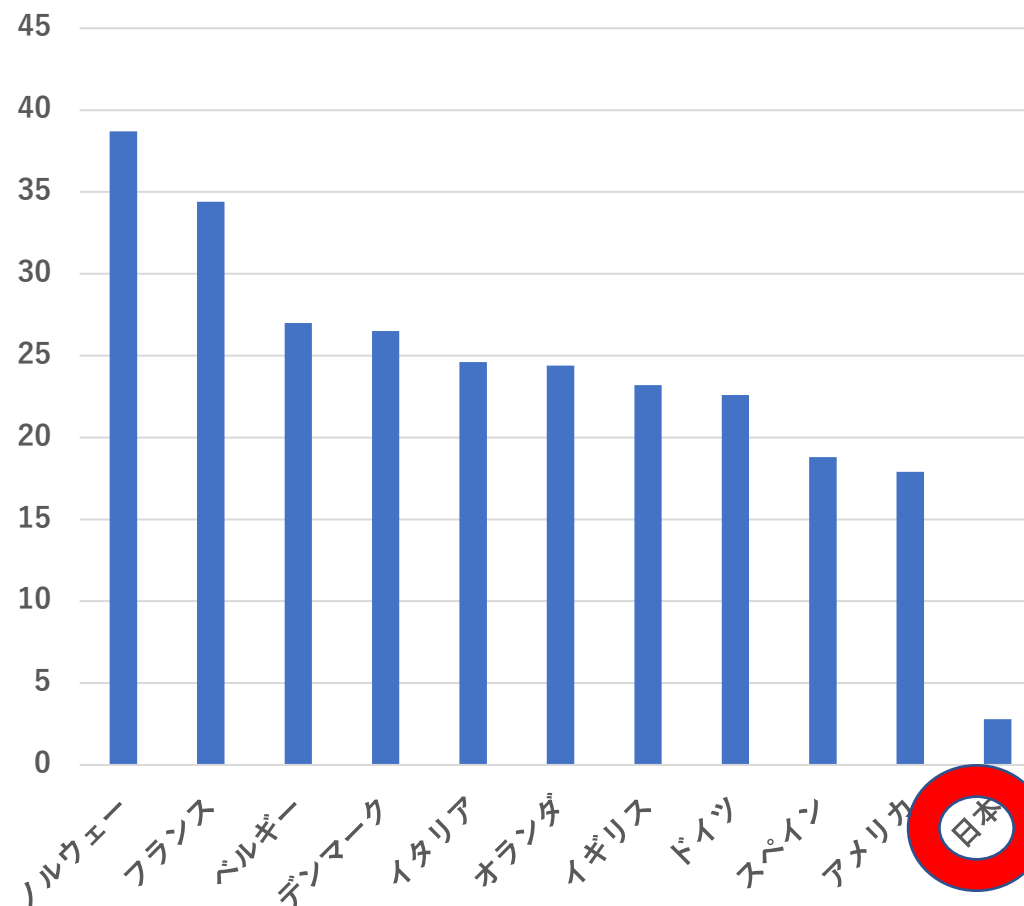


経済の中核における女性%



世界の企業役員女性の女性%

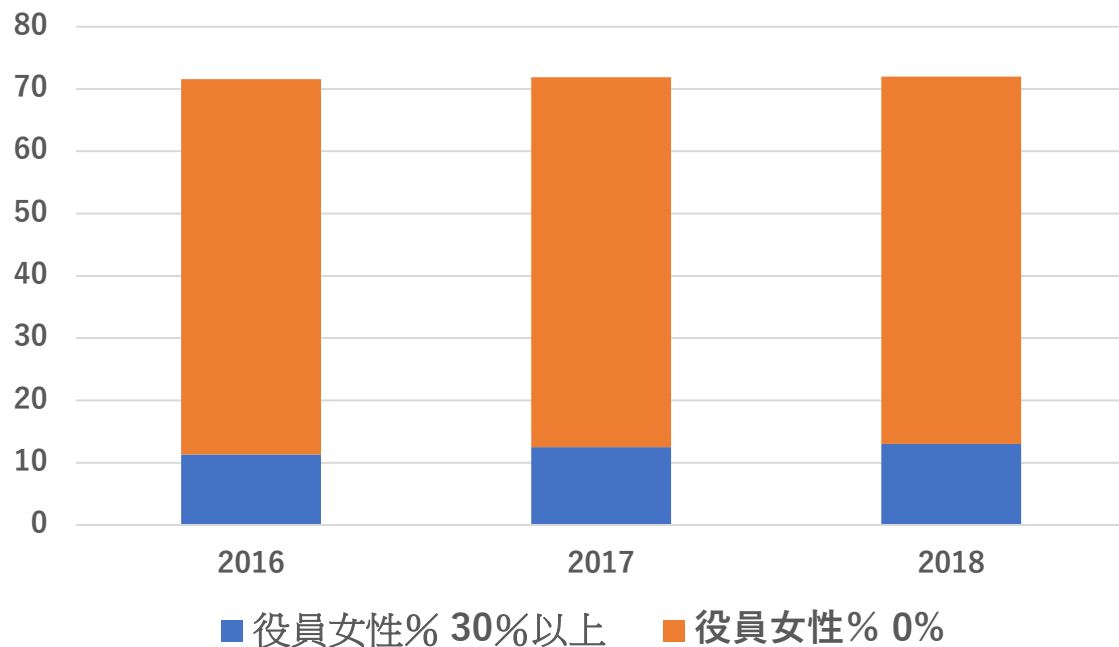
2015



帝国データバンクによる

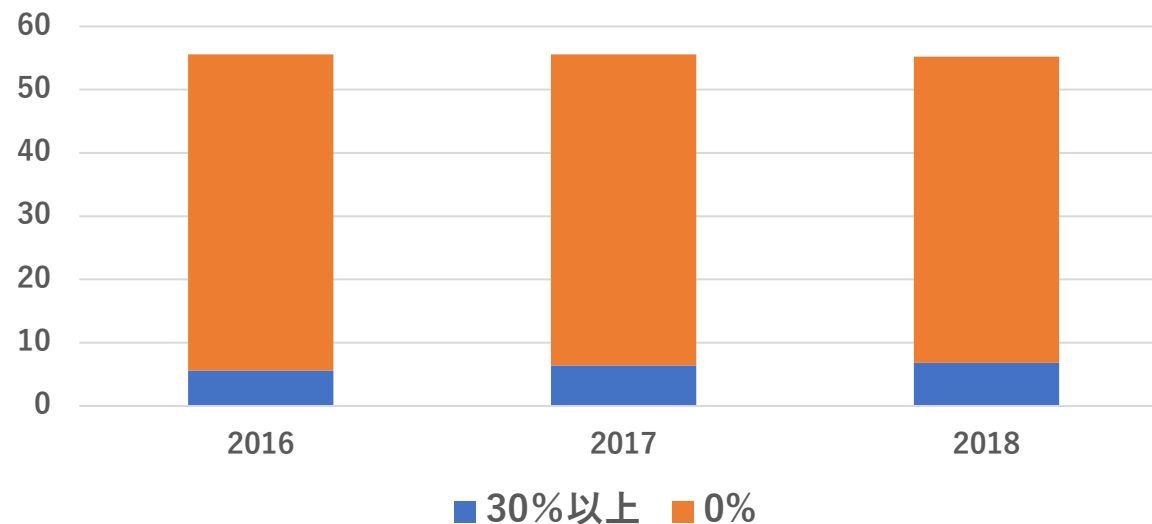
経済の中核における女性%

日本企業9979社 役員女性%



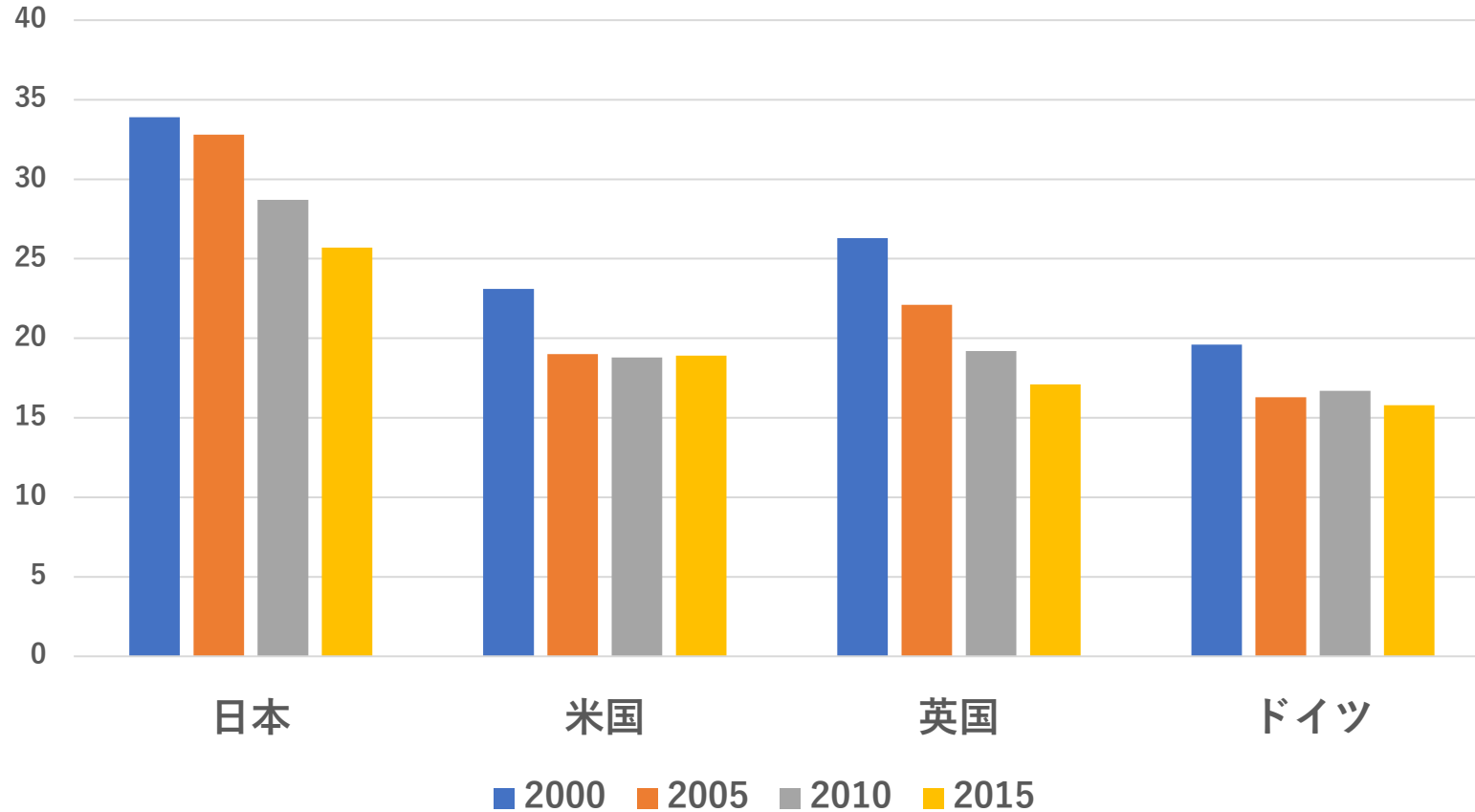
役員女性0企業は2016年で60.3%
2018年で59.0%

日本企業9979社 管理職女性%



管理職女性0企業は2016年で50.0%
2018年で48.4%

男女賃金格差（フルタイム中央値）

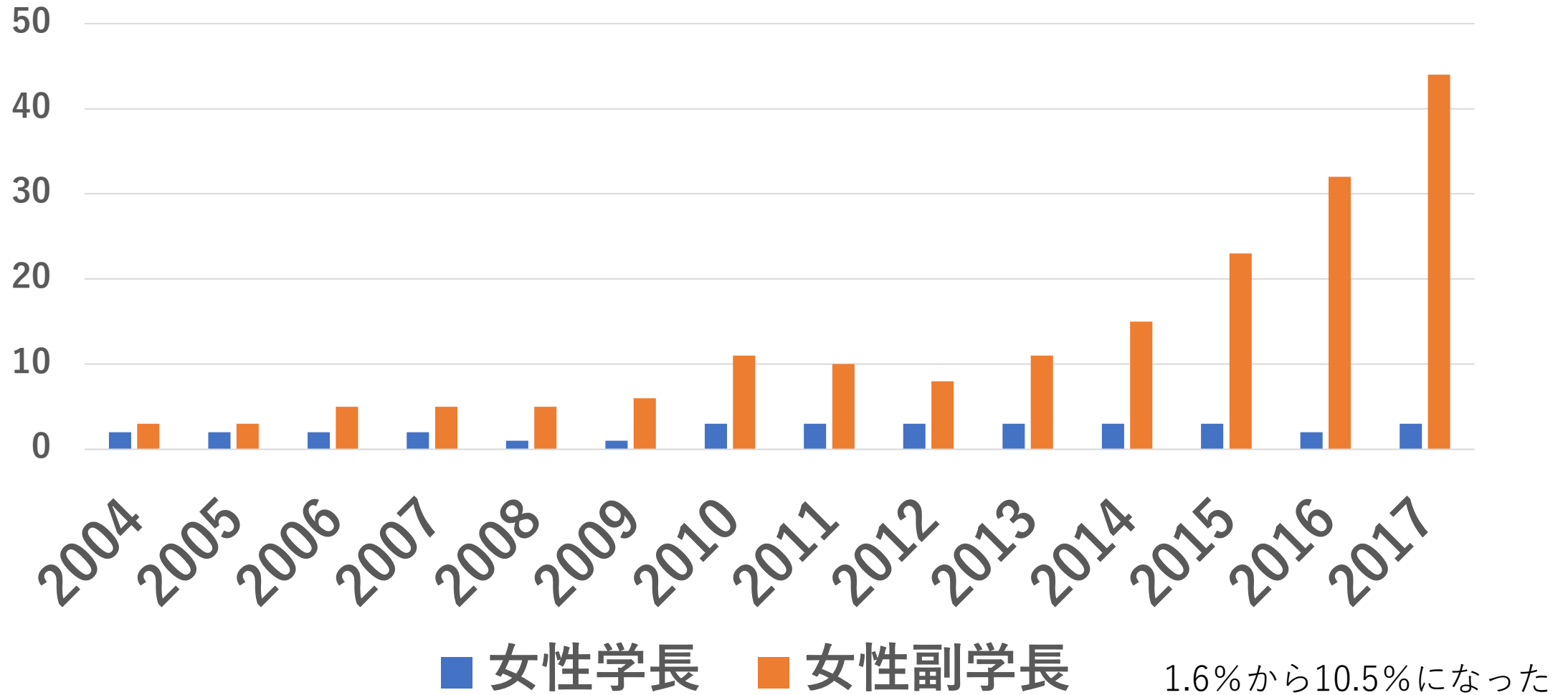


日本は2000年で
33.9%
OECD諸国で
ビリから2番目

日本は2016年で
24.6%
ビリから3番目
(韓国、エストニア)

男性の賃金中央値に比べて女性の中央値が何%低い

そして再び、国立大学法人



結論

- 日本は、世界的に見て、とくに先進国として見て、女性の地位が格段に低い。そして、**変化が遅すぎる。**
- 社会のさまざまな場面で意思決定する立場にいる女性の数が圧倒的に少ない。それは、教育、政治、経済のすべて。**それが日本の閉塞感の原因の一つだろう。**
- 政界と経済界もそれぞれに努力して、管理職の女性割合を3年以内に30%にすべし。
- 3年以内に国立大学学長の10%を女性に、副学長の50%を女性に、理事・副学長の30%を女性に。黙っていて自然にそうなるのを待っていては、変化の速度が遅すぎる。嫌がられてもポジティブ・アクションを！

ダイバーシティ（多様性）の意味

- **生物進化学からの教訓：多様性がなければ変化に対応できずに絶滅する**
- 昨今は、日本の社会でも「ダイバーシティ」の重要性をうたっているはず。
- その意味は何なのか？ 単に労働力として女性も外国人もただただ働いて欲しいということなのか。
- しかし、意思決定の立場に日本の男性の年寄りだけがいるのでは、社会は変わらず、活力がなくなる。
- ダイバーシティの意味は、立場、考え方、価値観、ものの見方が異なる人々がみんなですべて社会を「運営する」ことで活力を得ること。